議会レポート
平成30年(2018)11月発行

群馬県議会議員

原 かずたか 特集号

境事務所　〒370-0127 伊勢崎市境上武士898-1 TEL.0270-74-0633 FAX.0270-74-1988
寿町事務所 〒372-0052 伊勢崎市寿町155-3　TEL.0270-30-1101 FAX.0270-30-1103

自由民主党群馬県連 筆頭副幹事長を拝命!!

▼安倍首相と官邸にて

平成30年第二回定例会
『炸裂! 本気!!の一般質問!!』

時下 皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日ごろより原 かずたかに対しまして多大なるご支援、ご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、群馬県議会平成30年第二回定例会において一般質問を行いました。今回も地元·伊勢崎市より多くの方々が傍聴にお越し頂き、熱い声援を賜りました。お越し頂き、誠にありがとうございました!

今年度(平成30年度)の群馬県議会におきましては、議会運営を円滑に行うための『議会運営委員会』の副委員長を拝命させて頂いたほか、自由民主党群馬県支部連合会 5月の役員選考会において筆頭副幹事長という要職を担わせて頂くこととなりました。来春にはいよいよ県議会議員選挙、県知事選挙、参議院議員選挙が行われます。さらに身を粉にしてこの重責を務めていきます。

『活力ある伊勢崎から群馬を元気に!!』の信条の下、これからも県政発展に精一杯尽力して参ります。今後とも皆様の力強いご支援、ご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成30年第2回定例会における一般質問要項

1. 本県の財政について
（1）財政調整基金・減債基金等について →
（2）中期財政見通しについて

質問の内容が新聞に掲載されました

2. 高齢者就労支援について

3. 高齢者施策について
（1）介護予防・日常生活支援総合事業と生活支援体制整備事業について
（2）民生委員について
（3）地域医療介護総合確保基金等について

4. 福祉医療制度の見直しについて→

関連記事が新聞に掲載されました

5. 障害者就労支援について

6. 本県の災害対応について
（1）減災対策協議会の取組状況について
（2）福祉避難所の指定状況等について

7. 農作業の安全に向けた取組について

8. 伊勢崎市内の道路の整備状況並びに鉄道利用促進アクションプログラムについて
（1）都市計画道路上矢島米岡線の街路事業について
（2）伊勢崎市内にあるJR両毛線、東武伊勢崎線のアクションプログラムについて

県政についてのご質問·お問合せは上記の原かずたか事務所までお願いします。

平成30年第2回定例会のおもな一般質問の内容

1. 本県の財政について

(1)財政調整基金･減債基金等について

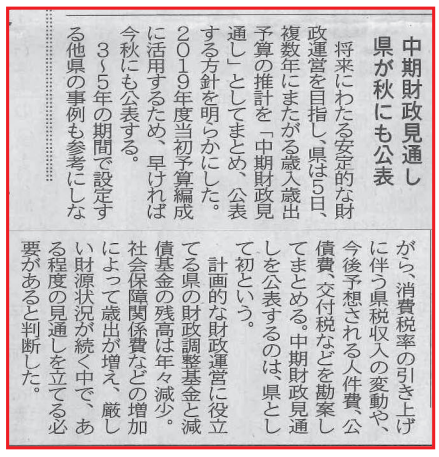
Q. 【原 県議】今年度から財政調整基金につきましては、基金を全額取り崩さずに残高10億円を確保したことは評価致しますが、基金が過去最低水準を更新し心配される状況です。基金の状況･今後の見通し、来年度予算に与える影響をお聞かせ下さい。また、今年度初めて取り崩しをした地域福祉基金についても、取り崩した理由と使途、その見通しについてお尋ねします。

A. 【総務部長】これまでは当初予算編成において、財政調整基金と減債基金の全額を取り崩して財源を確保してきましたが、大規模災害への備えや年度間の財源調整を図るため財政調整基金については、一定規模の残高を確保しておくことが望ましいことから、平成30年度当初予算におきましては残高11億円を残しました。また2月補正予算の段階で歳出の不用額等により基金残高にある程度復元をさせて、これを新年度の当初予算に活用しているところですが、ここ数年、復元できる額は少なくなってきており、平成31年度当初予算編成に向けては、さらに厳しい状況であると認識をしております。
次に地域福祉基金の状況については、その運用益を地域福祉の推進に関する事業に活用してきたところで、平成30年度はこの36億円のうち10億円を取り崩しましたが、これは社会保障関係経費が増加する一方、財政調整基金の残高が年々減少するなど厳しい財政状況にある中で、軽費老人ホーム利用料補助、老人福祉施設整備費補助などの福祉関連の事業の財源として活用することとしたものです。来年度以降の地域福祉基金の取り崩しについては、予算編成の過程やその時々の財源状況を踏まえ検討してまいりたいと考えています。

(2)中期財政見通しについて

Q. 【原 県議】財源が限られる中、県民のニーズに的確かつ迅速に応えるとともに継続的かつ安定的なサービスを提供するために、中長期的な見通しを立て計画的に財政運営する必要があると前回の一般質問でも訴え、県も前向きに検討すると回答がありました。その後の状況はいかがでしょうか?

A. 【総務部長】県政への課題を適切に対応していくためには、将来にわたって安定的な財政運営を行っていくことが必要であることから、中期的な財政見通しを作成･公表するよう検討を進めています。今後、中期財政見通しを平成31年度当初予算編成に活用できるものとするため、平成29年度決算や今後の国の動向等を反映させるなど、検討を加え公表する予定です。



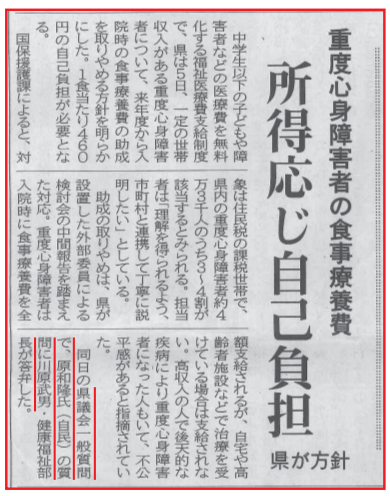
中期財政見通し
県が秋にも公表

将来にわたる安定的な財政運営を目指し、県は5日、複数年にまたがる歳入歳出予算の推計を「中期財政見通し」としてまとめ、公表する方針を明らかにした。2019年度当初予算編成に活用するため、早ければ今秋にも公表する。
3～5年の期間で設定する他県の事例も参考にしながら、消費税率の引き上げに伴う県税収入の変動や、今後予想される人件費、公債費、交付税などを勘案してまとめる。中期財政見通しを公表するのは、県として初という。
計画的な財政運営に役立てる県の財政調整基金と減債基金の残高は年々減少。社会保障関係費などの増加によって歳出が増え、厳しい財源状況が続く中で、ある程度の見通しを立てる必要があると判断した。

◀上毛新聞に掲載された一般質問の記事

2. 福祉医療制度の見直しについて

Q. 【原 県議】平成29年第3回定例会において、重度心身障害者の入院時食事療養費について一定の所得がある方は自己負担をお願いする方向で市町村と調整を進めている旨の答弁がありました。
この現在の進捗状況と、医療費助成の見直しについての状況もお聞かせ下さい。



重度心身障害者の食事療養費
所得応じ自己負担
県が方針

中学生以下の子ども や障害者などの医療費を無料化する福祉医療費支給制度で、県は5日、一定の世帯収入がある重度心身障害者について、来年度から入院時の食事療養費の助成を取りやめる方針を明らかにした。1食当たり460円の自己負担が必要となる。
国保援護課によると、対象は住民税の課税世帯で、県内の重度心身障害者約4万3千人のうち3～4割が該当するとみられる。担当者は「理解を得られるよう、市町村と連携して丁寧に説明したい」としている。
助成の取りやめは、県が設置した外部委員による検討会の中間報告を踏まえた対応。重度心身障害者は入院時に食事療養費を全額支給されるが、自宅や高齢者施設などで治療を受けている場合は支給されない。高収入の人で後天的な疾病により重度心身障害者になった人もいて、不公平感があると指摘されていた。
同日の県議会一般質問で、原和隆氏（自民）の質問に川原武男・健康福祉部長が答弁した。

◀上毛新聞に掲載された一般質問の記事

A. 【健康福祉部長】食事療養費の助成については、在宅の療養者や介護施設入所者との公平性の観点から重度心身障害者の方に対しましては、一定の所得がある場合は自己負担をお願いするとの見直し方針を決定致しました。また、医療費助成の見直しについては在り方検討会において所得制限の導入など、様々な見直しの可能性について議論し、真に支援が必要な方に支援が行き届く制度になるようしっかりと検討し、見直しを進めて参ります。

3. 農作業の安全に向けた取り組みについて

Q. 【原 県議】農業従事者の高齢化に伴い、農作業中の事故が多発し、中でも死亡事故は他の産業と比較して非常に高い状況にあります。本県の農作業の安全に向けた取り組みについて教えて下さい。

A. 【農政部長】農作業の事故において、トラクターによる転落、転倒事故等、機械作業に関わるものが多く見られます。これを踏まえJAや機械販売店等の関係機関と連携し、農業事務所や農林大学校において新規就農者や女性農業者を対象に各種講座や講習会の開催、常用トラクターや刈り払い機を用いた農作業の安全指導も行っています。また、昨年度は高齢者にも分かりやすい農作業安全チェックシートを3万部作成し、安全周知の徹底を行っており、これに加え本年度は高齢者の多い集落営農組織を対象とした対話型研修会を開催するとともに身体機能測定や敏捷性診断も実施予定です。

4. 伊勢崎市内の道路の整備状況並びに鉄道利用促進アクションプログラムについて

(1)都市計画道路上矢島米岡線の街路事業について

Q. 【原 県議】旧境警察署の南に旧国道354号、伊勢崎深谷線にぶつかる部分が現在T字路になっています。通学路の確保や利便性も踏まえ上矢島米岡線の早期開通を要望しておりますが、本街路事業の進捗状況をお伺いいたします。

A. 【県土整備部長】都市計画道路境米岡線については、平成27年度にアンケートを実施し、平成28年度に都市計画を変更し、昨年度、路線測量、道路詳細設計及び用地測量を行いました。今年度は用地測量を完了させ、一部用地買収に着手予定です。早期の工事完成に向けて事業の進捗に務めてまいります。

◀上矢島米岡線の街路事業について質問

(2)伊勢崎市内にあるJR両毛線、東武伊勢崎線のアクションプログラムについて

Q. 【原　県議】今後5年程度を目安に基幹交通維持に向けた緊急対策として、県が中心となりアクションプログラムを策定したと聞いています。アクションプログラムの概要と市内JR両毛線、東武伊勢崎線の取り組みについてお聞かせ下さい。

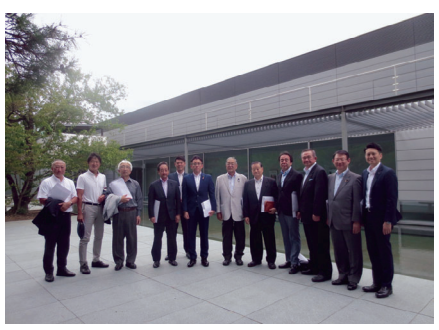
A. 【県土整備部長】アクションプログラムは今年3月に策定した群馬県交通まちづくり戦略に基づき、鉄道利用促進に向けた緊急対策を路線別にまとめたものです。伊勢崎市内の取り組みについては、今年度よりJR両毛線に着手しパーソントリップ調査の結果や鉄道利用実績データなどの分析を進めています。
東武伊勢崎線のアクションプログラムにつきましては、平成32年度の策定を予定しており、先行して剛志駅を事例とし、簡易的で暫定的な施設整備のほか、市街化を促進するおそれのない範囲内で駅と一体的なまちづくりはどうできるか、その研究に着手する予定です。県民の多様な移動手段の確保に向け、鉄道の利用促進に努めて参ります。

特別委員会 県外視察について

所属：公共交通･観光振興特別委員会

平成30年9月4日(火)～6日(木)　視察地：長野

公共交通･観光振興特別委員会では9月に長野を視察しました。『安曇野髙橋節郎記念美術館』『野沢温泉村役場』『しなの鉄道株式会社』等を訪問。自然の特性や地形を活かした観光業への取り組みや、旅客の伸び悩み等で経営の厳しい時期にも黒字経営を確保する対策等、大変興味深く参考になりました。今回の視察を参考にし、本県の公共交通･観光振興の発展に役立てて行きたいと思います。



◀本人中央

◀本人一番右

ぐんまシチズンシップ･アカデミーについて

平成29年12月、平成30年9月

若者の政治離れが叫ばれる中、政治への関心を高めるための取り組みとして『ぐんまシチズンシップ･アカデミー』を開催しました。この取り組みは県内の数大学の学生を県議会に招き一般質問の傍聴や議員との意見交換を行う取り組みです。議事堂や県庁舎の見学も行い、議会･政治を身近なものとして感じて頂きました。意見交換を通して、若い世代ならではの政治に対しての考えも感じ取ることが出来、大変有意義な時間になりました。

◀本人中央